

2-P-10

何のための専門職教育なのか——生きる意味を考える

永島 聡

児童生徒は日々、学校に通い教育を受けるのであるが、それは何のためなのか。医療サービスを望む患者は何のためにそれを受けるのか。それは、勉強するためであり、健康を回復するためなのであろう。では何のために勉強をしなければならないのか。何のために健康を回復しなければならないのか。そして、教師は何のために児童生徒を教育するのか。医療従事者は何のために医療サービスを提供するのか。

それは、児童生徒や患者のその後の人生がより意味のあるものになるため、と言えるかもしれない。では、そもそも意味のある人生とはどのようなものなのか。意味ある人生を送ろうとする人間とはそもそもどのような存在なのか。専門的援助を提供する側が、人生の意味や人間存在について悩み苦しみつつ、何らかの人生観ないし人間観を持つようとする姿勢なしにそのサービスを提供する場合、それは表層的かつ無機的なものにとどまるのではないだろうか。

人間に関わる専門職を目指す者、その専門職を養成する者にとって、何らかの哲学的な人生観や人間観を持つこと、あるいは持つようすることは、望ましいことであると思われる。今回、オーストリアの精神医学者・哲学者 V・E・フランクルのロゴセラピー理論に基づき、教育・医療系の学生とその教員の望ましいあり方について考察したい。

2-P-11

ストレスに対する細胞反応をバイオインフォマティクスで解析する

大田 美香
菅野 亜紀、高岡 裕

バイオインフォマティクスは、生物学に関する膨大なデータを情報科学により解析する方法である。今回、ストレスに対する細胞反応についてバイオインフォマティクス解析を行った。まず、「stress」に関連する遺伝子を OMIM で検索し、タンパク質をコードする 1001 遺伝子を選択した。この 1001 遺伝子について、Gene Ontology の biological process のアノテーション情報を使用し、クラスタ解析を行った。その結果、243 クラスタが得られ、それらの関連を Cytoscape ソフトウェアで可視化した。次に、細胞の主要なシグナル伝達経路と代謝やタンパク質分解等にかかわるパスウェイから、1001 遺伝子の 5% である 50 個以上の遺伝子が含まれる 3 種類のパスウェイ、(1)MAPK signaling pathway、(2)PI3K-Akt signaling pathway、(3)Protein processing in endoplasmic reticulum を選び、KEGG pathway database から関係する遺伝子を取得した。そして、243 クラスタの中でこの 3 種類のパスウェイに関係する遺伝子数が 5% を超える事を条件に、ストレスに関係するパスウェイを決定した。その結果、パスウェイ (1)～(3) がストレスに関連することが示唆された。なお、本発表は、科学研究費補助金基盤研究 (C) (課題番号 24590884) による研究成果である。